

南原 繁（なんばら しげる）

大正時代は、伏木、古府のあたりは、射水郡（伏木地区と射水市をあわせた地域）であった。大正6年、28歳のときに射水郡の郡長（ぐんちょう：市長のような役割）となり、2年間という短い間だったが、射水郡を発展させるために、射水郡立農業公民学校（今の小杉高校）の建設や射水郡婦女会（女性の活動団体）の育成、射水郡灌漑排水事業（かんがいはいすいじぎょう：沼のような田んぼの水はけをよくして働きやすくする工事）などの計画を立案した。

その後、内務省に戻ったが、国をよくするためには研究が必要だと考えて、東京帝国大学（今の東京大学）の教授になった。戦争が終わって間もない昭和20年12月、東京帝国大学の総長に就任した。大学では学生を励ましたり、戦争に負けて心の支えをなくしていた日本中の人々に、これからの理想や目当てを示して、生きる勇気を与えたりした。

本校の**第7代校長 藤田 多吉**（ふじた たきち）先生は、昭和25年4月、下関小学校長として赴任したときに、南原先生と知り合いになられた。昭和28年5月、藤田校長先生は、「古府小学校に掲げる額の文字を書いてください。」とお願いしたところ、南原先生は快く引き受けてくださった。「どんな言葉がよいですか。」と聞かれたので、「『真実』（しんじつ）と書いてください。」とお願いして、書いていただいたのが正面玄関に掲げてある書である。

藤田校長先生は、校長を務めた下関小学校、古府小学校、伏木小学校の三校に、それぞれ南原先生にお願いして書を寄贈しておられる。下関小学校には「真理」、伏木小学校には「創造」という言葉を贈られた。それぞれ、学校教育の理想や目当てを示す大切な指針として、その心は今も受け継がれている。

本校の「**真実**」は、藤田校長先生が本校教育のモットーとしたいと思われた言葉である。この言葉の意味は、「いつわらないこと。まこと。あるいは誠実。」ということである。みんなが真実に生きたら、どんなにかよい社会ができるであろう。

《 略 歴 》

- 1889年（明治22年） 香川県に生まれる。
- 1914年（大正3年） 東京帝国大学卒業。内務省に勤務する。
- 1917年（大正6年） 富山県射水郡長になる。
- 1919年（大正8年） 日本で最初の労働組合法案を作るため、内務省に呼び戻される。
- 1921年（大正10年） 東京帝国大学助教授になる。
研究のためにヨーロッパに行く。
- 1925年（大正14年） 東京帝国大学教授になる。
- 1943年（昭和18年） ナチズムを批判する論文を発表する。
- 1945年（昭和20年） 東京帝国大学法務部長になる。
東京帝国大学長になる。
- 1946年（昭和21年） 日本国憲法をつくる相談に参加する。
- 1951年（昭和26年） 東京大学総長退任。
その後も、研究と論文や本の執筆、講演。
- 1952年（昭和27年） 下関小学校に「真理」の揮毫を贈る。
- 1953年（昭和28年） 古府小学校に「真実」の揮毫を贈る。
- 1960年（昭和35年） 伏木小学校に「創造」の揮毫を贈る。
- 1973年（昭和48年） 病気のため入院。
- 1974年（昭和49年） 自宅療養。
勲一等旭日大綬章親授。
死去。